

学校教育目標

1 教育目標 『かしこく(知) やさしく(徳) たくましい(体)子』の育成

2 教育方針

子どもたちにとって学校は「生涯にわたって学び続ける力を育む」ところであり、「元気な心と身体を育む」ところである。そのような学校であるためには、生徒指導の4機能(自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安心・安全な風土の醸成)を活かした学級・学年・学校経営による「安全で安心できる学校生活」を土台とし、「知・徳・体のバランスのとれた教育活動」の実践が必要である。様々な実践により、子どもたちに「これからの社会を生き抜く力」「社会や世界と関わりながらよりよい人生を送る力」を確実につける学校づくりをめざす。

3 めざす姿

〈めざす児童像〉

「かしこく」【知】……進んで学習に取り組む子

*自ら考え、仲間と深め合う

「やさしく」【徳】……思いやりの心をもつ子

*自分、人、ものを大切にし、認め合い、助け合う

「たくましく」【体】……最後までやりぬく子

*自分自身の心と体の健康に関心を持ち、何事にもあきらめずに取り組む

〈めざす学校像〉**笑顔とありがとう、あいさついっぱい**の学校～子どもも教師もウェルビーイング～

「喜びのある学校」……学びの楽しさや自分の成長を実感できる学校

「安全・安心な学校」……安全な環境の中で一人一人を大切にする学校

「信頼される学校」……家庭・地域と連携し、共に歩んでいく学校

〈めざす教職員像〉

「子どもの心に寄り添う教職員」……笑顔と元気で、子どもたちにも笑顔と安心を

「切磋琢磨し協働する教職員」……若手もベテランも共に育つ大浦小に

「保護者・地域と共に歩む教職員」……家庭・地域と連携し、子どもの健やかな成長を共に喜ぶ関係に

4 本校の経営方針

- 学びの楽しさを実感する学校をつくり、児童が行きたくなる学校をめざす。
- 安全・安心で清潔な環境、学びやすく学びたくなる環境をつくる。
- 組織として児童を育てていくという自覚を持ち、子どものよさや可能性を見つけ、児童の力を伸ばす教師集団をつくる。
- 6年間で子どもたちを育てる、今年はその子どもたちの成長の1年間/6年間を預かる意識で関わる。
- 担任がたくさんいる大浦小学校であるように子どもたちと関わる。
- 家庭や地域と情報を共有し、保護者や地域住民と学校が一体となって学校運営の改善や児童の健全育成に取り組む。
- 教職員の業務の適正化により、子どもと向き合う時間の確保をめざす。
- 主任・主事等の機能化により、組織的な学校運営を図る。

5 中期目標と方策

目標1 楽しみ・喜びがある学校づくり

- (1) 学びの楽しさを実感する授業により、学力向上をめざす。
 - ① 「基礎」「向上」「充実」のステップを意識した指導を実践する。
 - ② 自ら問い、自ら行う「金沢探求スタイル」の実践を通して、児童一人一人が課題設定、情報収集、整理分析、まとめ・表現する探究的な活動の充実を図る。
 - ・デジタルも活用し、**関わり合う場を増やし**、コミュニケーション力を高める。
 - ・効果的に**体験学習**を取り入れ、感性を磨く。
 - ・ノート指導により、書く力をつける…課題、自分の考え、まとめ、ふりかえり
 - ・学習のまとめ、振り返り…何を学んだのか、どのように学んだのかを振り返り、**自己の変容に気づかせ**、次時の意欲につなげる。
 - ・教科の用語や図などを用いてまとめる時間、練習問題等に取り組む時間を設け、児童の理解度や達成度を把握し、補充、授業改善を行う。
 - ・1人1台端末の効果的な活用を推進し、ICT版金沢型学習スタイルに基づく授業づくりに取り組む。
 - ③ 家庭での学習習慣の定着
 - ・資料「家庭学習の仕方」をもとに、家庭との連携を図る。
 - ・学年×10分の学習ができるように、内容や方法を指導していく。
 - ④ 学習規律の定着による、落ち着いた学習環境をつくる。
 - ⑤ 学力調査等の結果分析から取組の検証を行い、改善策を立て、共通実践を行う。
 - ⑥ 小中間で授業参観等を行い、授業改善を推進する。(金沢型小中一貫教育)
- (2) 仲間とつながる活動を通してよりよい人間関係をつくる。
 - ① 積極的な生徒指導を行う。
 - ・積極的に**構成的エンカウンター、アサーション**等を用い、よりよい人間関係づくりに取り組む。
 - ・自己指導力、自己肯定感の醸成 望ましい人間関係の構築。
 - ② 児童が主体となる活動(わっくわくタイム・児童会活動・クラブ活動)を充実させ、自主性を育て、自己有用感を醸成する。
- (3) 心身ともに健康な身体をつくる。
 - ① 運動や遊びの場を工夫、充実していく。
 - ② 健康に関する各種データをもとに、取組の改善、環境整備を進める。
 - ③ 家庭との連携による規則正しい生活の習慣化を図る。
 - ④ **当たり前なことを当たり前でできる力の育成。**

目標2 安全・安心な学校づくり

- (1) 子ども一人一人を大切にする。
 - ① 全ての教育活動の前提は「安全」「安心」であるという意識を深め、安全指導を徹底する。
 - ② 児童理解に努め、教職員、保護者、関係機関等との情報交換を密に行う。

③ WEBQV アンケート等により、児童の状況を的確に把握し、指導に生かす。

(2) 組織的な学校運営を行う。

- ① 各主任・主事の機能化と、学年会、専門部会、企画委員会、職員会議の効果的な運営により、共通理解・共通実践を確実に挙う。
- ② 報告(義務)、連絡(心遣い)、相談(解決策)を迅速・確実に行い、細やかな対応を心がける。
- ③ 教育環境を4S(整理・整頓・清潔・清掃)の実践でよりよいものにしていく。
- ④ 服務規律の徹底により、公務員としての意識を高め、不祥事の未然防止に心がける。

(3) 保護者・地域と連携した安全指導を行う。

- ① 危機管理意識を高め、児童や保護者、地域と共に研修会・講習会を行う
- ② 情報交換を密にし、迅速な指導・対応を行う。
- ③ 災害発生時における児童の登下校について、保護者・地域と連携して児童の安全を確保する。

目標3 子どものよさや可能性を見つけ、児童の力を伸ばす教師集団づくり

(1) 校内研修の充実により、広い知識、高い技能を身につける。

- ① 外部講師を招聘し、授業づくりや生徒指導、特別支援教育の研修を深める。
- ② 若手育成プログラムを活用し、組織的かつ効果的な校内 OJT を実施する。

(2) 自己の役割、立場を意識した目標設定

- ① 面談シートを活用し、取組目標の達成に向けて、計画的・効率的に業務を遂行する。
- ② 児童のよさやがんばりを認め、意欲を引き出す指導・支援を大切に挙る。

目標4 信頼される学校づくり

(1) コミュニティスクールの実施

- ① 保護者・地域住民の意見を的確に反映させる「学校運営協議会」の活動を充実させ、保護者・地域と連携して学校運営を進めていく。

(2) 社会に開かれた学校づくり

- ① 授業参観や学校公開週間、各種行事を通じて学校の教育活動を公開する。
- ② 学校・学年便り(配信)やホームページ等で情報を発信していく。
- ③ 保護者・地域からの声を大切にし、教育活動の充実・改善に生かす。
- ③ **地域学校協働活動**を通して、地域の人材を活かしていく。

目標5 教職員が本務に専念するための時間の確保

- ① 時間外勤務時間が月 55 時間を超える教職員をゼロにする。
- ③ 時間外勤務時間の1ヶ月あたりの平均を32時間以下にする。
 - ・各種会議等の整理・統合を行う
 - ・最終退校時刻の目標を設定する。19:00
 - ・各種活動の見直し・改善を行い、無駄を省く。(スクラップ&ビルド)
 - ・コミュニティスクールの実施により、地域と連携して効果的な教育活動を行う。

6 今年度の重点的な取組目標と具体的な方策

めざす学校像に向けて、【チームおおうら】として協力・協働の精神を大切にした学校運営を行う。

～そろえる・見直す・やりきる～

(1)一人一人のよさを「認め(感動し)」育てる。(教員の指導力向上と児童の学力向上)

- ・付けたい力が明確な授業
- ・個に応じたスモールステップの段階的指導を行う。
- ・児童のよさを認め、生かし、成功体験(自分は役に立っていると実感できる経験)を重ねることで、自己肯定感、自己有用感、自己貢献感を高める。
- ・ありがとうを言い合える人間関係(良さを認め合える学校→学級集団)の醸成。
- ・期待し、励まし、認め、子どもと一緒に喜ぶ。

(2)前例踏襲にとどまらず、子どもたちのために必要な学習活動を創り上げる。

- ・何のために(めざす児童の姿)、どんな活動を、どのように行うのかを意識して計画する。
- ・共通理解・共通実践により、組織的な取組を進める。
- 提案されたことは確実に実践し、成果や課題を明確にして共有し、改善につなげる。

(3)GIGA スクール構想の推進

- ・個別最適な学び(一人一人の学びにそった学習)
- ・協力・協働の学習環境(ICT 活用により、より関わり合いのある授業をめざす)

(4)安心・安全な学校

- ・未然防止に努める。
- ・報告・連絡・相談を密に行う。
- ・事件・事故が発生してしまったら、「即日・丁寧」に対応する。

(5)保護者との連携

- ・保護者に対して、日常的に子どもの成長やがんばっていること(教師が感動している・認めていること)を伝える。
- ・地域の方に日常的に感謝を伝える。

(6)たゆまぬ改善

- ・意味のあることに力を注ぎ、意味のないことや効果の薄いことは、廃止・縮小・統合を検討する。
- ・実施後、振り返りの段階で不都合な点について原因を明らかにし、改善策を確定し、次回につなぐ。